

中津孝司著「日本のエネルギー戦略——資源危機の10年後を予想する——」

創成社 2009年6月20日 刊を読む

1. エネルギー資源を保有する新興国・資源国が台頭する時代が到来したことは明らかな。自然エネルギーを基軸とするエネルギー安全保障体制を構築しない限り、エネルギー資源純輸出国の相対的地位が高まるのは必至の国際情勢だ。そういった国にマネーが流入する構図は今後、しばらくは継続するだろう。この意味で新興国・資源国の存在が世界同時不況を克服する突破口となる。
2. だが、自然エネルギーのみのエネルギー自給体制を整備すれば、これを達成した国が世界の頂点に立てる。実質的にこの技術力を保持する国家が世界経済の救世主となる。その最前線に日本がいることを忘れてはなるまい。
3. 日本政府、日本国民が技術開発に邁進する前提条件を所与とすれば、日本の技術が世界の救世主となるのだ。過度に悲観することはかえってマイナス要因となる。
4. もちろん、技術開発を怠れば、その段階で日本の再浮上は実現しない。中流国家以下に成り下がってしまうであろう。警戒すべきは日本国民が勤勉な国民から怠惰な国民となることだ。この文脈において、若年層の責務は重い。

P193

[コメント]

自然エネルギーのみのエネルギー自給体制整備の現在のフロント・ランナーである日本が、どこまで技術開発を深め続けることができるかで日本の運命が決まる。その条件は国民の勤勉性にあるというのなら、ものづくりの担い手、理系人材の育成を国家戦略

- 2009年6月2日林明夫記 -